

人文学部卒業研究

題 目 画学生と個展

指導教授 三摩 真己

印

提出年月日 2018年 12月 14日

学籍番号 HI15036

氏 名 高橋 麻里那

画学生と個展

HI15036 高橋麻里那

要旨

この作品は、名古屋造形大学 イラストレーションデザインコース 4年の安藤シオン氏の初の個展を追ったドキュメンタリーである。

安藤氏は、色鉛筆のみで、動物や自然物をテーマにしたイラストを描いている。そんな安藤氏と私は、高校時代の同級生であり、陰ながら制作活動を応援していた。こうした中、安藤氏が初めて個展を行うことを知り、取材を依頼したところ快諾してもらえたため、卒業制作の題材に決めたのである。

この作品のねらいは、普段見ることができない安藤氏の作品の制作過程や、こだわりを持つ色鉛筆に対する思い、個展の搬入から搬出までを追うことで、個展を経験した安藤氏の成長を伝えることと、安藤氏の作品に興味を持ってもらい、一人でも多くの人に作品を直接見たいと思ってもらうことである。

取材を進めていくと、イラストもデジタル化が進む中で、安藤氏が色鉛筆にこだわる理由がわかった。それは、色鉛筆の多様性の幅を広げている現状が面白く、まだまだ多くのことに挑戦したいから、ということであった。そこまで挑戦し続けられるのは、色鉛筆が秘めている表現の可能性と、色鉛筆に挑戦することができる環境に感謝していることが大きいという。

2018年8月7日から12日までの6日間、春日井市の文化フォーラム春日井・ギャラリーで開催された安藤氏の個展には、作品制作に取り組み始めた高校生の頃の作品から最新作まで、およそ80点が、安藤氏の理想通りに展示された。

極めて緻密で繊細な構図の作品は、訪れた650人もの人々を魅了し、インタビューに応じてくれた来場者は、「とても色鉛筆だけで描かれたものとは思えない」と感心していた。

私は安藤氏を追っていて、1年かけて個展の構想を練り、実現に結び付けたその行動力と、一つのことに挑戦し続ける姿に感銘を受けた。安藤氏は、自分でアクションを起こさなければ、何も起きないつまらない人生になるから、というチャレンジ精神で、個展開催という一大イベントをやったのけたのである。

また、周りに支えられて、恵まれた環境であると語っていた安藤氏だが、安藤氏に人を引き付ける力があるからこそ、ここまで周りが協力するのだろう、と安藤氏と接していて感じられた。

絶対的なセンスと自信を持ち、楽しんで制作活動を行っている安藤氏の作品の魅力が、この作品を見る人に伝われば、本望である。

キーワード

色鉛筆・個展・挑戦・感謝・行動力

目次

1.	なぜこのテーマを選んだのか	1
2.	ねらい	1
3.	構成	1
3.1	アバン	1
3.2	作品制作の様子	1
3.3	制作中の作品の紹介	2
3.4	搬入	3
3.5	初日	4
3.6	中日	4
3.7	最終日	5
3.8	搬出	6
3.9	個展を終えて	6
4.	この作品を通して伝えたかったこと	7
5.	この作品を通して学んだこと	7
付録1	構成表	i
付録2	台本	xiii